

VI 第12回サケマスに関する研究座談会

主催 社団法人 大日本水産会
水産海洋研究会

日時： 昭和49年3月18日(月) 10:30~15:00

会場： 大日本水産会 会議室(三會堂ビル)

コンビナー 藪田 洋一 (遠洋水産研究所)

川上 武彦 (東海区水産研究所)

話題および話題提供者

1. オホーツク海のサクラマスについて

待鳥 精治 (遠洋水産研究所)

2. 北西太平洋に分布するベニサケ (*Oncorhynchus nerka*) の未成魚について

大迫 正尚・加藤 守 (遠洋水産研究所)

3. 最近のプリストル湾沖合の海況とベニサケ (1973年ブ系ベニ回帰異変の一考察)

藤井 武治 (北海道大学水産学部)

4. 総合討論

1. オホーツク海のサクラマスについて

待鳥 精治 (遠洋水産研究所)

サケ属の他魚種と同様に、サクラマスも淡水域で産卵し、生まれた稚魚は1~2年の河川生活を送ったのち、海洋生活にはいる。海洋生活の才2年目(海洋生活約満1年)に成熟し、産卵のため再び河川に帰ると考えられているが、ソ連の研究者の中には海洋生活才3年目に成熟する個体も存在するとみなしている人もある (Birman, 1972)。

サクラマスは主に日本海に分布しており、主な産卵河川も日本海に面する地方に分布している。北海道、サハリン、沿海州などがその中心である。

カムチャッカ半島南西部地方にもサクラマスのそ上河川があり (Semko, 1956)、オホーツク海にもサクラマスが分布している。しかし、この地方のサクラマスは資源量が小さいこともあって、一部の人間に関心が持たれている程度であった。

カムチャッカ半島南西部に分布するサクラマスは、主産卵地方である日本海北部沿岸地方と地理的に飛び離れているのが特徴である。カムチャッカ半島南西部地方は、アジアにおけるサケ属の中心的な分布域であり、サクラマスと生活史や生態が似ているギンザケの中心的な分布域でもある。まだこの

地方のサクラマスは河川内の生活の様子についてはほとんど知られていないが、生態が異なったり、あるいは類似したサケ属各魚種が同一地方で繁殖していることは、今後さらに興味をもたれるべき点であろう。

この地方で生まれたサクラマスの海洋での生活域は、オホーツク海や日本海であろうと推測される(島崎, 1970)。オホーツク海ではオ1図に示したような水域でサクラマスの分布が知られている。海に下って間もないサクラマス未成魚が漁獲された水域は、カムチャッカ半島西岸沿いと、サハリン、北海道沿いの水域である。産卵回遊途上のサクラマス成魚が漁獲されたことのある水域は、オホーツク海南部から東部にかけてである。千島列島を隔てた北西太平洋では、まだサクラマスの分布は確認されていない。

上記の水域でサクラマスの未成魚が確認された時期は7~9月であり、成魚については5~7月である。10月から4月までの間は調査がなく不明である。

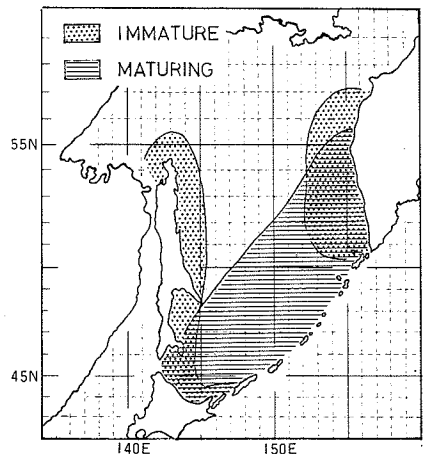
6月にカムチャッカ半島南西部沖合に分布する成魚は同半島にそ上するものとみられる(島崎, 1970)。また、同水域で漁獲されたサクラマスの中には、日本海で行なわれるサケマスはえなわ漁業の釣針をくわえたものがあることも知っている。したがって、カムチャッカ半島起源のサクラマスのうち、少なくとも一部ものは日本海で越冬することが明らかである。一般的にはオホーツク海におけるサクラマスの魚群密度は高くなく、魚群密度の最も高いカムチャッカ半島南西海岸付近でも、通常、流し網1反当りの漁獲尾数は0.5尾以下であり、反当り漁獲尾数が1尾に達することは稀れである。それも6月上旬~中旬までであり、6月下旬以降になると、反当り0.1尾以下の敏々たるものとなる。サケ属の他の魚種では6月中旬以降に、この水域の魚群密度が高くなることと異なっている。

1969年から1972年にかけてカムチャッカ半島西岸沖合で流し網(目合111~121mm)によって漁獲されたサクラマス成魚の尾又長の平均は、雄461cm, 雌458cm, 平均体重は雄1.47Kg, 雌1.44Kgであった。雌雄比は雌60%, 雄40%であった。平均成熟度指数は雄で体重の1.5%, 雌で6%であった。カムチャッカ半島西部系のサクラマスについてはまだ部分的にしか知られておらず、同地方で生まれたサクラマス属の他の魚種は大太平洋へ回遊するのに対して、同地方で生まれながらサクラマスだけがオホーツク海や日本海で生育する点など、生物学的に興味のある性質をのぞかしており、今後、調査の充実を計らねばならない魚種と考えられる。

文 献

Birman, I. B. (1972); シーマの生物学的諸問題。太平洋業海洋研究所報, 82. 235-247。(水産庁 1974, 日ソ漁業科学技術協会翻訳印刷文献, 加藤 守訳)。

Semko, R. S. (1956); 西カム産シマ(Oncorhynchus masou) についての新資料。動物学雑誌, 35(7)。(ソ連北洋漁業関係文献集, 3 崎浦治之訳)



第1図 オホーツク海におけるサクラマスの漁獲水域

島崎 健二(1971):カムチャッカ南西海域に來遊するサクラマス^{*}の組成の特徴ならびに回遊について。北大水産彙集, 22 (1), 37-46.

2 北西太平洋に分布するベニザケ(*Oncorhynchus nerka*)の未成魚について

大迫 正尚 加藤 守 (遠洋水産研究所)

前 が き

近年沖合のさけますに対する各国の調査研究は充実されつつあり、ベニザケの未成魚についての知見も深まってきた。日本においては特に網目の選択性を除去した調査用流刺網を用いて、1966年から1971年までは一部の、1972年以降は総べての調査船が調査を行なってきた。この結果早い時期のベニザケ未成魚についての知見が以前に比してより多く得られるようになった。

1967年以降、海洋における未成魚の相対的豊度から、翌年に來遊する成魚の豊度を予測するという目的で、8月を中心とした未成魚に対する定型調査が続けられている。

本報告では1966年から1971年までの5月~9月の調査から、ベニザケ未成魚の分布・回遊を概括し、さらに8月を中心とした定型調査の結果についてはより詳細に分析したのでその概略について報告する。

1. 材料と方法

さけますの調査船はおおよそ5月から9月にかけて、主に北西太平洋及びベーリング海で調査を行なっている。この調査では網目による選択性を除去するため5種目合で構成した5種目合調査用流刺網^{*}(石田他, 1965)を1966年~1971年、これを改良した10種目合調査用流刺網^{**}を1972年以降漁具として用いる。

* 5種目合 (55, 72, 93, 121, 157 mm)

** 10種目合 (48, 55, 63, 72, 82, 93, 106, 121, 138, 157 mm)

資料をまとめた海域の単位は $5^{\circ} \times 2^{\circ}$ 区画を用い、この単位で表現した。例えばE7550は $175^{\circ}\text{E} \sim 180^{\circ}$ および $50^{\circ}\text{N} \sim 52^{\circ}\text{N}$ で囲まれた区画を示している。

ベニザケの年令は普通淡水期と海洋期に分けて表示するが(例えば淡水生活1年, 海洋生活2年の場合1.2年魚)海洋年令のみを表示する場合、X年魚と表示し、いずれの場合も満年令を示す。

密度の指標としては、反当尾数を使用した^{*}が、5種目合(10種目合も5種目合に換算)それぞれ^{*}の目合1反当りの尾数を求め、5種目合合計したものをを用いた。